

「一」から始めた全霊の書

半田 重い障害 榊原さん個展

半田市岩滑高山町のNPO法人「りんりん」のデイサービスに通う同市亀崎町、榊原節子さん(左)が三日、同NPO敷地内の喫茶店「りんりん茶屋」で書の個展を開いた。初の個展で展示されているのは、全身の力を込めて書いた二百点余り。八日まで、無料。(石井紀代美)

筆握り2年半 200点並ぶ

榊原さんは幼いころ「X」を作り、意思疎通を図る。にかかった高熱の後遺症で、重度の障害が残った。体が自由に動かないため、食事や着替え、入浴など生活の大部分で介助が必要。言葉は話せないが、問はずは数字の「一」を掛けるには指で「〇」や「一」を書き始める。平らに倒し、全身全霊を込めて筆を動かす。



力作の「無」を前にする榊原節子さん。半田市岩滑高山町で。

同市岩滑中町で書道教室を開く講師役の榊原初美さん(左)は「非常に味わい深い文字。ほかに表現する手段がないせいか、文字に自分らしさがにじみ出ている」と評価する。会場には、書きためた作品が天井や壁いっぱい飾られ、榊原節子さんは目を輝かせて左手の人さし指と親指で小さな「〇」を作り、書道をしている時の気分を表現した。